

遠 3
2378
165

文政六癸未年

孟春新刻

前編

附祭踊子新書

つけまつり おどりこ 志ん ーよ

十返舎一九校合

幽月庵作

北尾美丸画

深川佐賀町
伊藤與兵衛板

宗

室取まらのいふ事か
おとこまふふうこと
さむくしてあひひら
うの車あつそひけさ
どろろてうきもの車
小五のきふささけい
あえのよていとわら
えんて孝子の傳を
人師林せいのい
幽月庵題

蘆橘香風引
葵花帶雨傾
蝸牛一双
角紅顏
生意中



無佛坊元越題



望月
數馬娘
十六夜



望月桂次郎





柿山渡太郎



望月長女
十四夜



大巻

あまのこちちまきか
まごちちいらいせんと
むかたきまごちちい
てむらうりす
○あまのこちちまきか
たいそのこちちまきか
けいそのこちちまきか
まごちちいらいせんと
むかたきまごちちい
てむらうりす
○あまのこちちまきか
たいそのこちちまきか
けいそのこちちまきか
まごちちいらいせんと
むかたきまごちちい
てむらうりす



あまのこちちまきか
まごちちいらいせんと
むかたきまごちちい
てむらうりす
○あまのこちちまきか
たいそのこちちまきか
けいそのこちちまきか
まごちちいらいせんと
むかたきまごちちい
てむらうりす

あまのこちちまきか
まごちちいらいせんと
むかたきまごちちい
てむらうりす
○あまのこちちまきか
たいそのこちちまきか
けいそのこちちまきか
まごちちいらいせんと
むかたきまごちちい
てむらうりす



あまのこちちまきか
まごちちいらいせんと
むかたきまごちちい
てむらうりす
○あまのこちちまきか
たいそのこちちまきか
けいそのこちちまきか
まごちちいらいせんと
むかたきまごちちい
てむらうりす

どのさうのいひも
 けりしものいひ
 はまのちのち
 けりしものいひ
 けりしものいひ
 けりしものいひ
 けりしものいひ
 けりしものいひ
 けりしものいひ
 けりしものいひ
 けりしものいひ
 けりしものいひ



けりしものいひ
 けりしものいひ
 けりしものいひ
 けりしものいひ
 けりしものいひ
 けりしものいひ
 けりしものいひ
 けりしものいひ
 けりしものいひ
 けりしものいひ
 けりしものいひ

二八

早やらのわし
 早やらのわし
 早やらのわし
 早やらのわし
 早やらのわし
 早やらのわし
 早やらのわし
 早やらのわし
 早やらのわし
 早やらのわし
 早やらのわし



早やらのわし
 早やらのわし
 早やらのわし
 早やらのわし
 早やらのわし
 早やらのわし
 早やらのわし
 早やらのわし
 早やらのわし
 早やらのわし
 早やらのわし

二九

三〇

あはれ申すは...
 けしきもあつて...
 ...
 ...
 ...

十四

とまち...

あはれ申すは...
 けしきもあつて...
 ...
 ...
 ...

あはれ申すは...



もくしんはあま
 けの日にまそ
 とれそこじん
 びまのあま
 あまのまそ
 うんまのあま
 つむらよのあ
 る人のまあこ
 まのあま
 うんまのあま
 せまのあま
 うあまのあま
 うあまのあま
 おあまのあま
 いあまのあま
 せんあまのあま
 らんあまのあま
 はあまのあま
 あまのあま
 かのあまのあま
 ちのあまのあま
 ものあまのあま
 さあまのあま
 そあまのあま
 くれあまのあま
 くらあまのあま



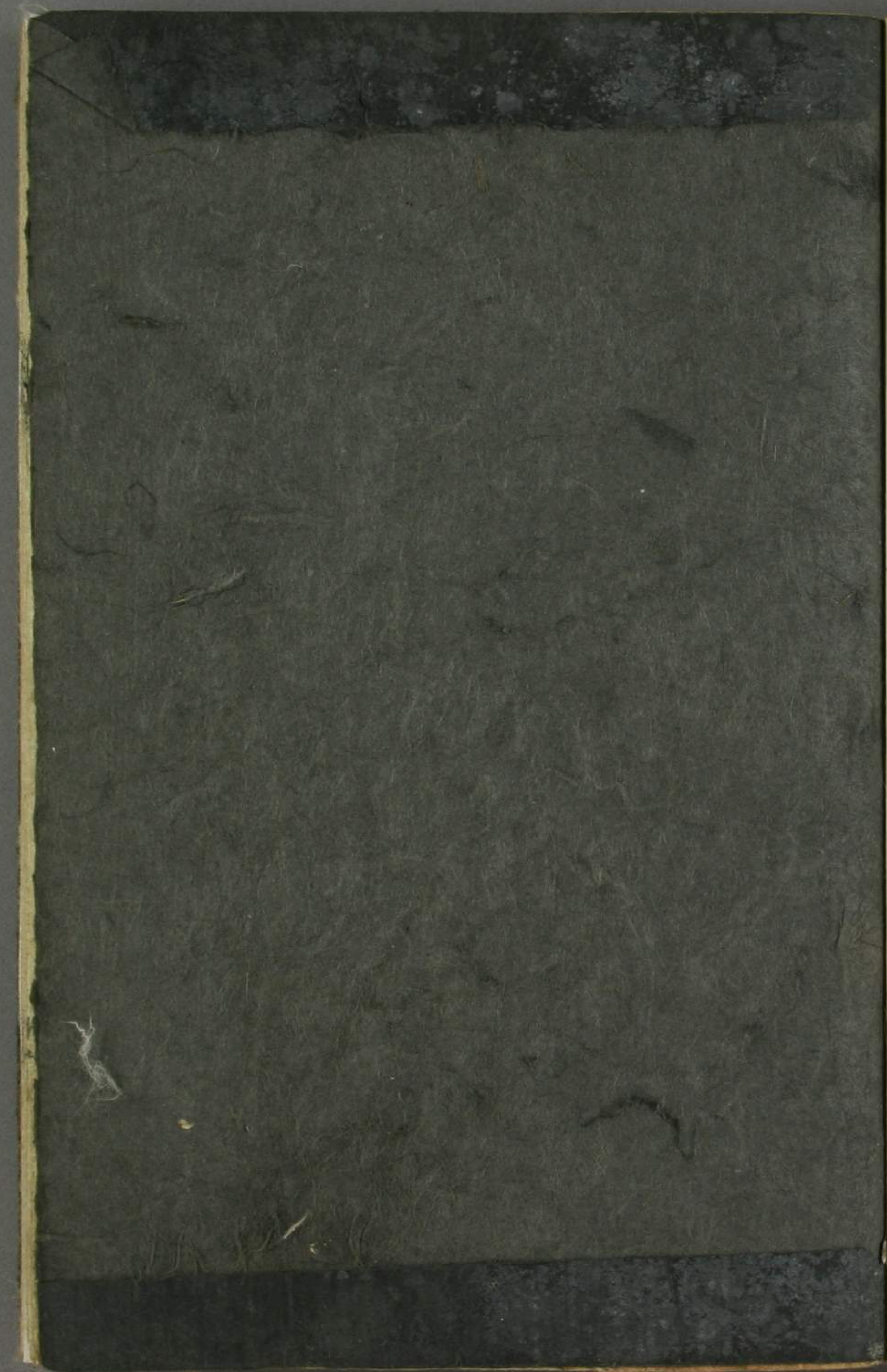
ちのあまのあま
 うあまのあま
 おあまのあま
 いあまのあま
 せんあまのあま
 らんあまのあま
 はあまのあま
 あまのあま
 かのあまのあま
 ちのあまのあま
 ものあまのあま
 さあまのあま
 そあまのあま
 くれあまのあま
 くらあまのあま

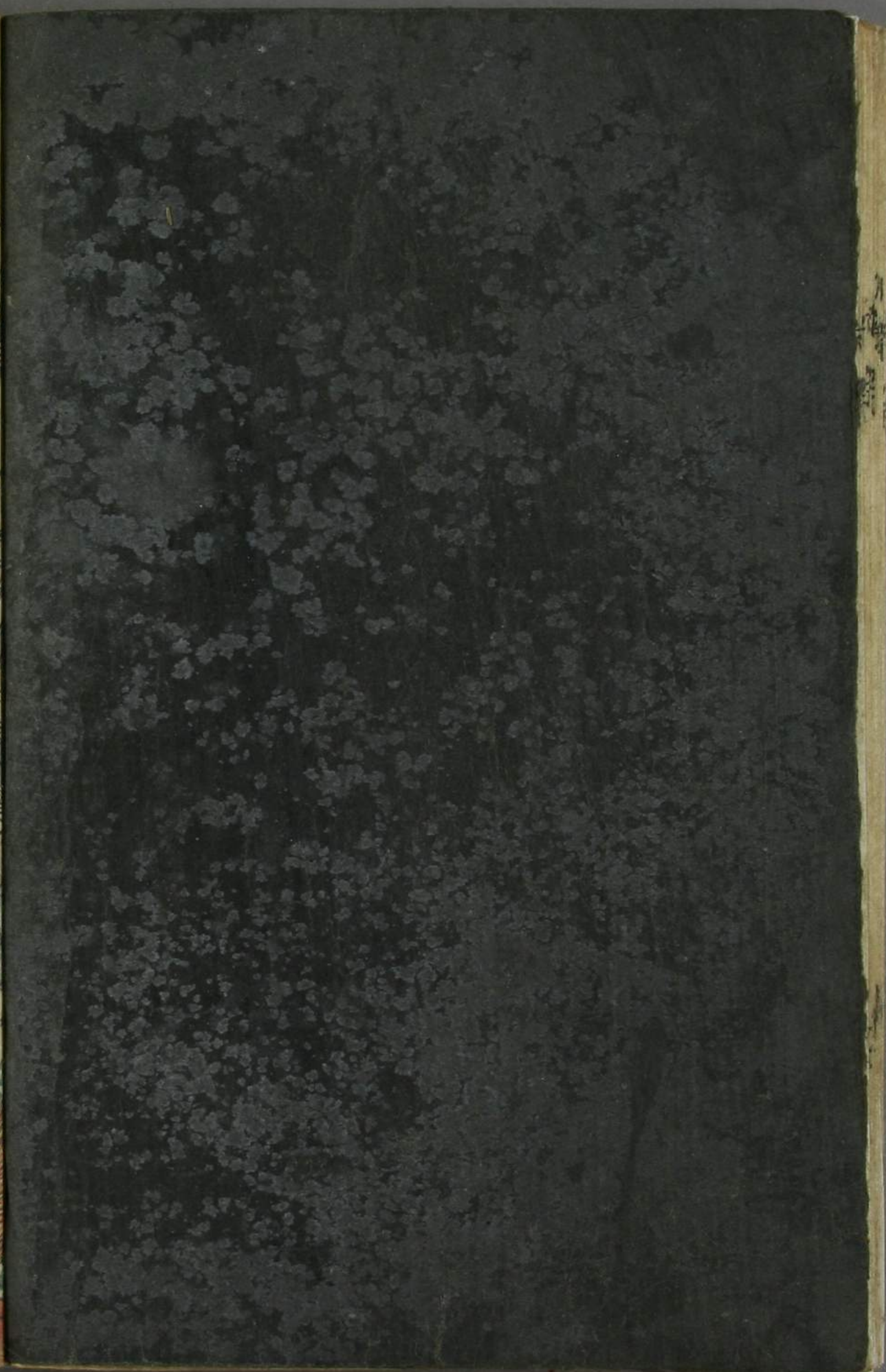
ちのあまのあま
 うあまのあま
 おあまのあま
 いあまのあま
 せんあまのあま
 らんあまのあま
 はあまのあま
 あまのあま
 かのあまのあま
 ちのあまのあま
 ものあまのあま
 さあまのあま
 そあまのあま
 くれあまのあま
 くらあまのあま



ちのあまのあま
 うあまのあま
 おあまのあま
 いあまのあま
 せんあまのあま
 らんあまのあま
 はあまのあま
 あまのあま
 かのあまのあま
 ちのあまのあま
 ものあまのあま
 さあまのあま
 そあまのあま
 くれあまのあま
 くらあまのあま

一、初年之始、
 二、二年之始、
 三、三年之始、
 四、四年之始、
 五、五年之始、
 六、六年之始、
 七、七年之始、
 八、八年之始、
 九、九年之始、
 十、十年之始、
 十一、十一年之始、
 十二、十二年之始、
 十三、十三年之始、
 十四、十四年之始、
 十五、十五年之始、
 十六、十六年之始、
 十七、十七年之始、
 十八、十八年之始、
 十九、十九年之始、
 二十、二十年之始、
 二十一、二十一年之始、
 二十二、二十二年之始、
 二十三、二十三年之始、
 二十四、二十四年之始、
 二十五、二十五年之始、
 二十六、二十六年之始、
 二十七、二十七年之始、
 二十八、二十八年之始、
 二十九、二十九年之始、
 三十、三十年之始、
 三十一、三十一年之始、
 三十二、三十二年之始、
 三十三、三十三年之始、
 三十四、三十四年之始、
 三十五、三十五年之始、
 三十六、三十六年之始、
 三十七、三十七年之始、
 三十八、三十八年之始、
 三十九、三十九年之始、
 四十、四十年之始、
 四十一、四十一年之始、
 四十二、四十二年之始、
 四十三、四十三年之始、
 四十四、四十四年之始、
 四十五、四十五年之始、
 四十六、四十六年之始、
 四十七、四十七年之始、
 四十八、四十八年之始、
 四十九、四十九年之始、
 五十、五十年之始、
 五十一、五十一年之始、
 五十二、五十二年之始、
 五十三、五十三年之始、
 五十四、五十四年之始、
 五十五、五十五年之始、
 五十六、五十六年之始、
 五十七、五十七年之始、
 五十八、五十八年之始、
 五十九、五十九年之始、
 六十、六十年之始、
 六十一、六十一年之始、
 六十二、六十二年之始、
 六十三、六十三年之始、
 六十四、六十四年之始、
 六十五、六十五年之始、
 六十六、六十六年之始、
 六十七、六十七年之始、
 六十八、六十八年之始、
 六十九、六十九年之始、
 七十、七十年之始、
 七十一、七十一年之始、
 七十二、七十二年之始、
 七十三、七十三年之始、
 七十四、七十四年之始、
 七十五、七十五年之始、
 七十六、七十六年之始、
 七十七、七十七年之始、
 七十八、七十八年之始、
 七十九、七十九年之始、
 八十、八十年之始、
 八十一、八十一年之始、
 八十二、八十二年之始、
 八十三、八十三年之始、
 八十四、八十四年之始、
 八十五、八十五年之始、
 八十六、八十六年之始、
 八十七、八十七年之始、
 八十八、八十八年之始、
 八十九、八十九年之始、
 九十、九十年之始、
 九十一、九十一年之始、
 九十二、九十二年之始、
 九十三、九十三年之始、
 九十四、九十四年之始、
 九十五、九十五年之始、
 九十六、九十六年之始、
 九十七、九十七年之始、
 九十八、九十八年之始、
 九十九、九十九年之始、
 一百、一百年之始、





文政六癸未年

孟春新刻

後編

つけまろりおどりこ ちん ーよ

附糸踊子新書

十返舎一九校合

幽月庵作

北尾美丸画

深川佐賀町

伊藤与兵衛板

卷之四

ちんまろりの踊子新書といふは
 江戸の浮世草子といふものなり
 ちんまろりといふは江戸の浮世
 草子の名なりとす。ちんまろり
 といふは江戸の浮世草子の名
 なりとす。ちんまろりといふは
 江戸の浮世草子の名なりとす。
 ちんまろりといふは江戸の浮
 世草子の名なりとす。ちんま
 ろりといふは江戸の浮世草子
 の名なりとす。ちんまろりい
 ふは江戸の浮世草子の名なり
 とす。ちんまろりといふは江
 都の浮世草子の名なりとす。



ちんまろりの踊子新書といふは
 江戸の浮世草子といふものなり
 ちんまろりといふは江戸の浮世
 草子の名なりとす。ちんまろり
 といふは江戸の浮世草子の名
 なりとす。ちんまろりといふは
 江戸の浮世草子の名なりとす。
 ちんまろりといふは江戸の浮
 世草子の名なりとす。ちんま
 ろりといふは江戸の浮世草子
 の名なりとす。ちんまろりい
 ふは江戸の浮世草子の名なり
 とす。ちんまろりといふは江
 都の浮世草子の名なりとす。



くはてふ
くはてふ
くはてふ
くはてふ
くはてふ
くはてふ
くはてふ
くはてふ
くはてふ
くはてふ

くはてふ
くはてふ
くはてふ
くはてふ
くはてふ
くはてふ
くはてふ
くはてふ
くはてふ
くはてふ



くはてふ
くはてふ
くはてふ
くはてふ
くはてふ
くはてふ
くはてふ
くはてふ
くはてふ
くはてふ

くはてふ
くはてふ
くはてふ
くはてふ
くはてふ
くはてふ
くはてふ
くはてふ
くはてふ
くはてふ

くはてふ

けののぬりかき... けののぬりかき... けののぬりかき...

女のあまのこ... 女のあまのこ... 女のあまのこ...



あまのこ... あまのこ... あまのこ...

あまのこ... あまのこ... あまのこ...



あまのこ... あまのこ... あまのこ...

あまのこ... あまのこ... あまのこ...



田舎



田舎

田舎

卷之五



あや子
いっふも
どうも
とま
よりけの女
大さふとありこびあつら
かしの中やこりたれくすらつ
えやせむいふあまのゆあて
るがれ—そのうすののそま
いさきうささいちうふあれと
もあてきたはひこびこけう
ゆとどくぬくへんさのさ
ゆとどくぬくへんさのさ

あや子
いっふも
どうも
とま
よりけの女
大さふとありこびあつら
かしの中やこりたれくすらつ
えやせむいふあまのゆあて
るがれ—そのうすののそま
いさきうささいちうふあれと
もあてきたはひこびこけう
ゆとどくぬくへんさのさ
ゆとどくぬくへんさのさ

あや子
いっふも
どうも
とま
よりけの女
大さふとありこびあつら
かしの中やこりたれくすらつ
えやせむいふあまのゆあて
るがれ—そのうすののそま
いさきうささいちうふあれと
もあてきたはひこびこけう
ゆとどくぬくへんさのさ
ゆとどくぬくへんさのさ



あや子
いっふも
どうも
とま
よりけの女
大さふとありこびあつら
かしの中やこりたれくすらつ
えやせむいふあまのゆあて
るがれ—そのうすののそま
いさきうささいちうふあれと
もあてきたはひこびこけう
ゆとどくぬくへんさのさ
ゆとどくぬくへんさのさ

あや子
いっふも
どうも
とま
よりけの女
大さふとありこびあつら
かしの中やこりたれくすらつ
えやせむいふあまのゆあて
るがれ—そのうすののそま
いさきうささいちうふあれと
もあてきたはひこびこけう
ゆとどくぬくへんさのさ
ゆとどくぬくへんさのさ

あや子
いっふも
どうも
とま
よりけの女
大さふとありこびあつら
かしの中やこりたれくすらつ
えやせむいふあまのゆあて
るがれ—そのうすののそま
いさきうささいちうふあれと
もあてきたはひこびこけう
ゆとどくぬくへんさのさ
ゆとどくぬくへんさのさ





のいせしむしりのかきかたがけうちのこを
 ちかきし中さるまてとふたえきりあ
 こころあひのあひまきりあひま
 中をせんがうのあひまきりあひま
 ともこのこころまのまうひ
 ううがしあかやうあひま
 さうしあまうあかやうあひま
 あれをそれまてあひま
 やうのさうあひま
 ともこのこころまのまうひ
 ううがしあかやうあひま
 さうしあまうあかやうあひま
 あれをそれまてあひま
 やうのさうあひま

洪のこころまのまうひ
 ううがしあかやうあひま
 さうしあまうあかやうあひま
 あれをそれまてあひま
 やうのさうあひま



桂のこころまのまうひ
 ううがしあかやうあひま
 さうしあまうあかやうあひま
 あれをそれまてあひま
 やうのさうあひま

桂のこころまのまうひ
 ううがしあかやうあひま
 さうしあまうあかやうあひま
 あれをそれまてあひま
 やうのさうあひま

